

クリーンアップ調査及びフォローアップ調査結果概要

1 調査範囲

共通調査は、定点に 10m 四方の調査枠（コドラート）を設置し、枠内の漂着ゴミの回収・分類を定期的に行なう調査である。本調査では、浜の形状や漂着ゴミの量などを考慮して調査枠を設定した。

1.1 共通調査の調査範囲（枠の設置）

調査範囲を図 1 に、調査枠の設置点を図 2 に示す。共通調査の枠は、原則として調査区管内に 5 定点を設置し、各定点には、汀線より連続して 5 枠設置することとしている。奈佐の浜は、汀線から浜の幅が狭く、定点枠を設定した全ての場所において、汀線から 10m 枠を 2 つ以上設置することは出来なかった。このため、全定点で 10 m 枠を 1 つ設置し、その枠内に汀線側から 2 m × 2m の枠を 5 枠設定し、残りの 8m × 10 m の 1 枠の合計 6 枠について調査を実施することとした。なお、定点 3、定点 5 は、浜の幅が 10 m に達しなかったため、最も汀線から離れた枠が設定できなかった。なお、各定点において設置した枠の状況を図 3 に、現地にて設定した枠の状況写真を図 4 に示した。

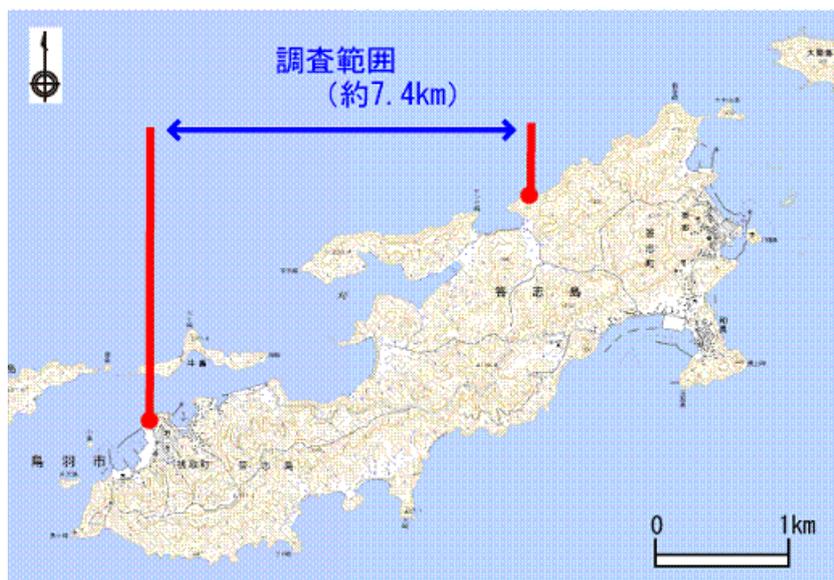


図 1 調査範囲（答志島）

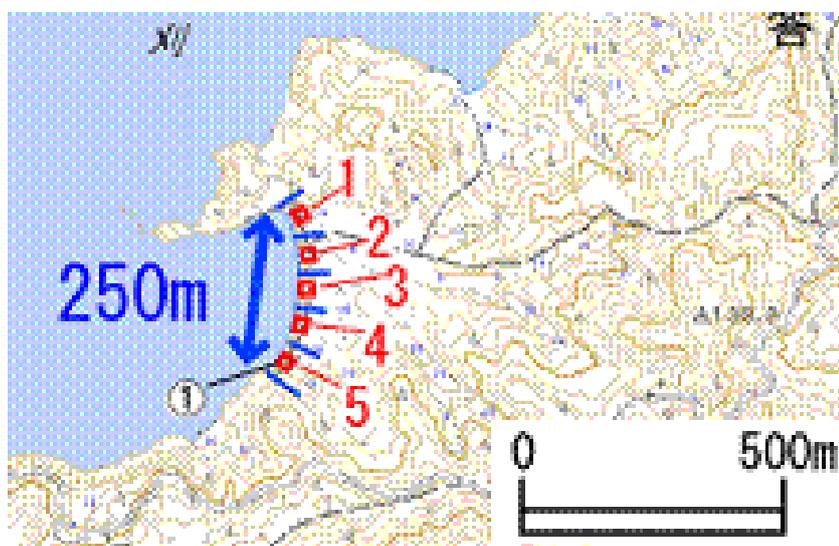


図 2 調査枠設置点（奈佐の浜）

表 1 調査枠の大きさ

定点番号	A	B	C	D	E	F
1	2m × 2m	8m × 10m				
2	2m × 2m	8m × 10m				
3	2m × 2m	2m × 2m	2m × 2m	2m × 1m		8m × 7m
4	2m × 2m	2m × 2m	2m × 2m	2m × 2m	2m × 0.3m	8m × 8.3m
5	2m × 2m	2m × 2m	2m × 2m	2m × 2m		8m × 8m

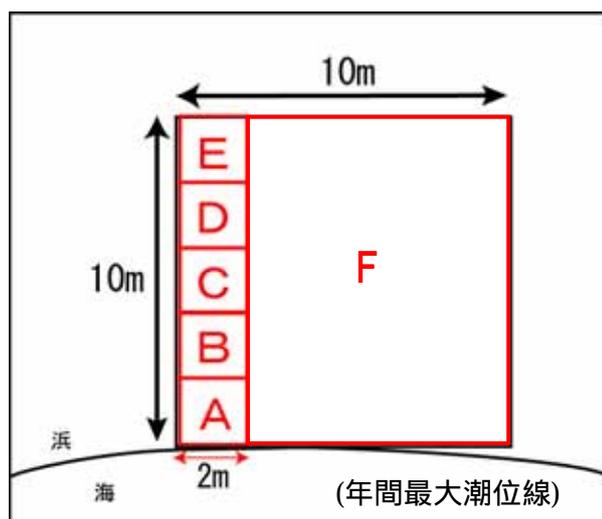


図 3 2m 枠の設置方法



図 4 (1) 調査枠の状況 (定点 1)



図 4 (2) 調査枠の状況 (定点 2)



図 4 (3) 調査枠の状況 (定点 3)



図 4 (4) 調査枠の状況 (定点 4)



図 4 (5) 調査枠の状況 (定点 5)

1.2 独自調査の調査範囲

独自調査の調査範囲は、答志島の北側に面する図5に示した約7.4kmの範囲内である。この範囲の内、事前の踏査により、共通調査を実施した奈佐の浜以外にも流木ならびに発泡スチロールの漂着している海岸の存在することは確認している。奈佐の浜を除いた漂着ゴミの確認された海岸は、いずれも船舶によるアクセスが最も回収効率が良い、安全であると判断された。今回の第1回目の独自調査では、まず奈佐の浜を対象範囲として絞り込み調査を実施した。このため、独自調査の調査範囲は、図6に示すとおり奈佐の浜の共通調査を実施した周辺を対象範囲とした。

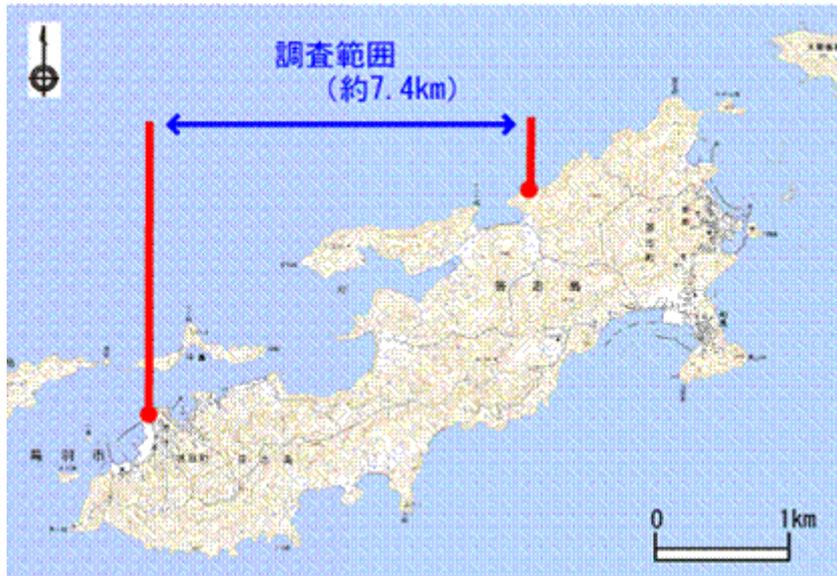


図5 独自調査の全対象範囲

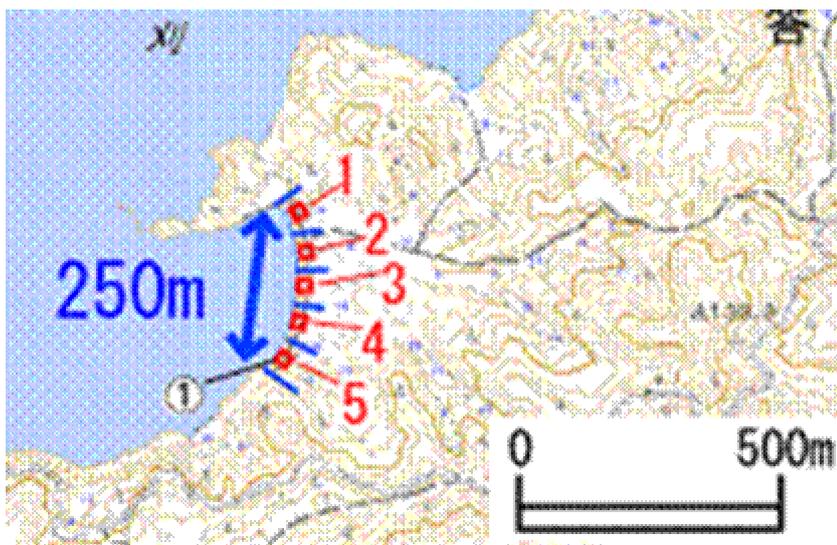


図6 第1回独自調査の範囲（奈佐の浜）

2 調査日程

2.1 第1回クリーンアップ調査

答志島における第1回クリーンアップ調査の実施日を表2に示した。奈佐の浜の5つの調査枠の設置には約1日、共通調査の漂着ゴミの回収には約1.5日、独自調査の漂着ゴミの回収には約2.5日を要した。漂着ゴミの分類には、約11日を要しており、他の調査地域よりも分類に多くの時間を要している。

表2 答志島における第1回クリーンアップ調査の実施日

調査日	10/14日	10/15月	10/16火	10/17水	10/18木	10/19金
	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目
共通調査						
調査枠の設定	■					
漂着ゴミの回収		■	■			
漂着ゴミの分類			■	■	■	■
独自調査						
作業員の人力による回収				■	■	■
作業員の人力による分類					■	■

注：なお、表中には示していないが、漂着ゴミの分類には、10月20日、10月22日～25日、11月1日～2日（午前中）に3～17人体制で実施している。

3 調査体制

第1回クリーンアップ調査の調査体制は表3に示した。

表3 第1回クリーンアップ調査の調査体制

		社名等	最大人数/日	延べ人数
共通調査	調査指揮	日本エヌ・ユー・エス(株)	4	23
	協力会社	(株)環境総合テクノス	2	12
	調査員	漁協桃取支所、鳥羽婦人会、 きれいな伊勢志摩づくり連絡会議、 鳥羽市ならびに三重県行政関係者	33	183
独自調査	調査指揮	日本エヌ・ユー・エス(株)	2	5
	協力会社	(株)環境総合テクノス	2	4
	調査員	漁協桃取町支所、鳥羽婦人会、 きれいな伊勢志摩づくり連絡会議、 鳥羽市ならびに三重県行政関係者	12	31

4 調査結果

4.1 共通調査

(1) 集計方法

回収した漂着ゴミの集計方法は、「内陸方向の集計」と「海岸方向の集計」の2通りの方法で集計を行った(図7参照)。

「内陸方向の集計」は、各定点1~5に設定した調査枠のA~Eについて、1A~5Aの5枠を集計し、 4 m^2 ($2 \times 2\text{ m}$)あたりの量に換算した。同様に、B、C、D、Eの枠についても集計後に、 4 m^2 あたりの量に換算した。

「海岸方向の集計」は、各定点1~5のA~F枠で採取された漂着ゴミを全て集計し、 100 m^2 あたりの重量に換算した。

なお、集計値は、重量(kg)と容量(L=リットル)の2通りで示した。

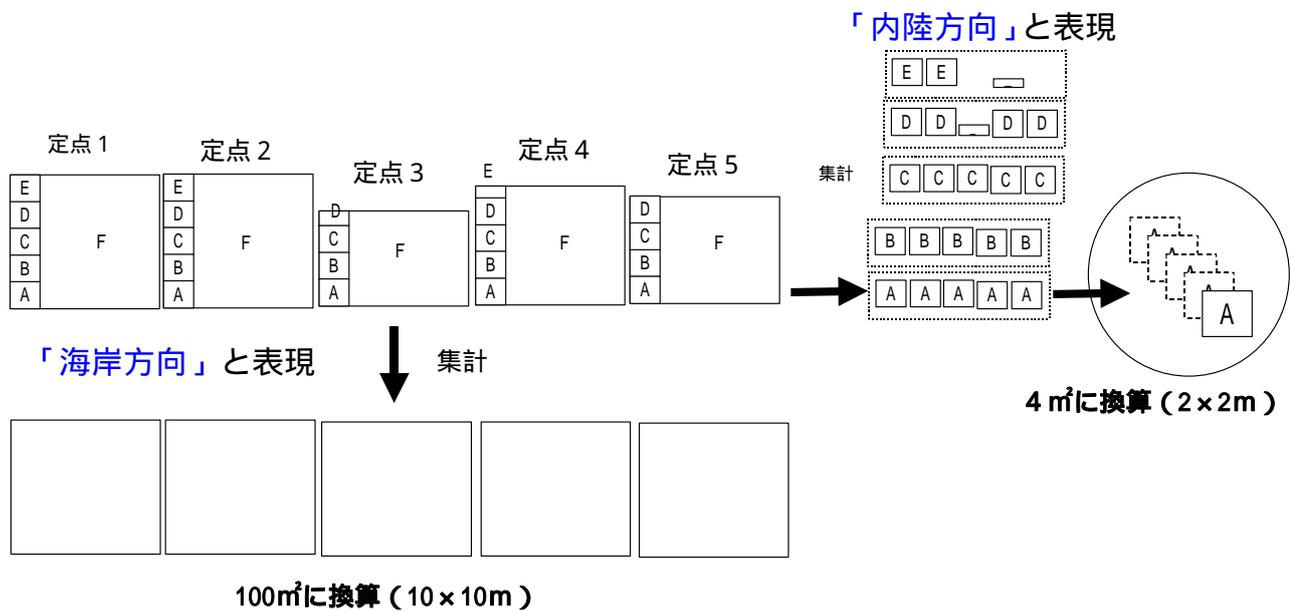


図7 集計方法

(2) 集計結果

重量での集計結果（海岸方向）

重量による海岸方向での集計結果を図8、表4に示した。海岸方向では、浜の南西側の枠にゴミの量が多く、定点4が最も多かった。種類別では、生物系漂着物（主に流木）とプラスチック類が多かった。

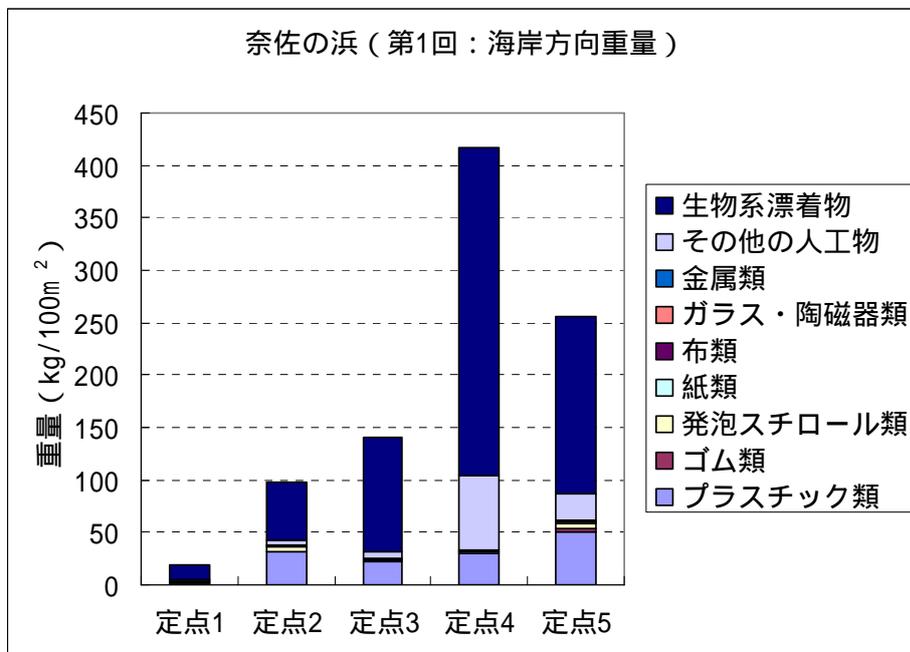


図 8 種類別重量の集計結果（海岸方向 : kg/100 m²）

表 4 漂着ゴミの材質別（大分類）重量の集計結果（海岸方向）

大分類	定点 1	定点 2	定点 3	定点 4	定点 5
プラスチック類	2.031	30.945	15.473	24.620	41.016
ゴム類	0.840	1.239	1.022	0.933	2.461
発泡スチロール類	0.075	4.745	0.767	0.926	3.501
紙類	0.010	0.070	0.113	0.130	0.699
布類	0.160	0.320	0.180	0.240	0.240
ガラス・陶磁器類	0.110	0.470	0.296	0.171	1.137
金属類		0.007	0.155	0.112	0.202
その他の人工物	0.801	5.618	3.826	59.677	20.363
生物系漂着物	15.640	54.720	76.214	259.610	134.881
重量合計 (kg)	19.667	98.134	98.046	346.419	204.500
面積 (m ²)	100	100	70	83	80
1 枠当りの重量 (kg/100m ²)	19.7	98.1	140.1	417.4	255.6

重量での集計結果（内陸方向）

重量による内陸方向での集計結果を図9、表5に示した。内陸方向では、年間最大潮位線（基準線となる汀線）に接するA枠が最も多かった。種類別では、生物系漂着物（主に流木）、プラスチック類が多かった。

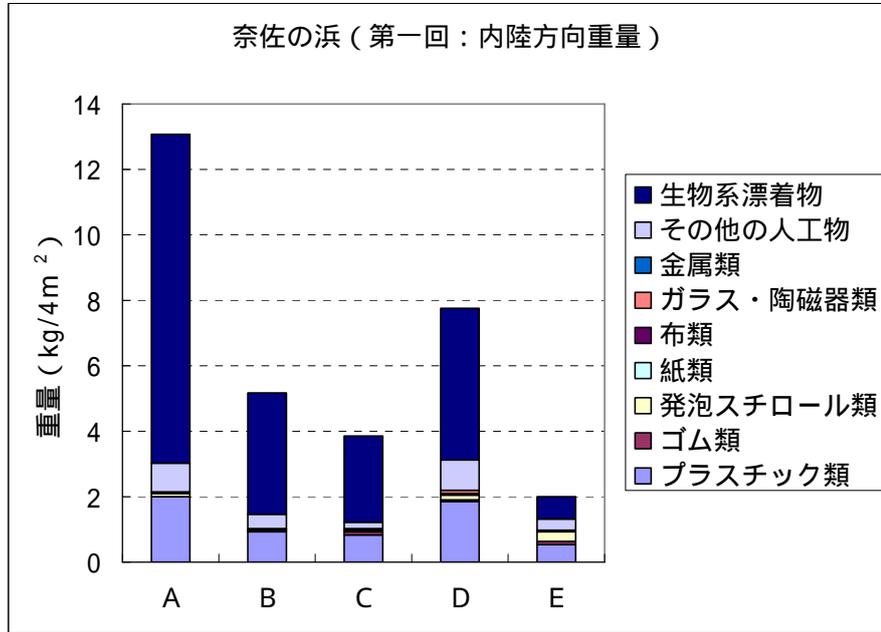


図9 種類別重量の集計結果（内陸方向：kg/4 m²）

表5 漂着ゴミの材質別（大分類）重量の集計結果（内陸方向）

大分類	A	B	C	D	E
プラスチック類	10.000	4.687	4.260	8.420	1.164
ゴム類	0.117	0.290	0.400	0.089	0.170
発泡スチロール類	0.260	0.111	0.207	0.768	0.708
紙類	0.044	0.025	0.050	0.130	
布類	0.030		0.020		
ガラス・陶磁器類	0.122	0.095	0.264	0.390	0.036
金属類	0.112	0.010	0.010	0.007	
その他の人工物	4.531	2.187	0.860	4.221	0.792
生物系漂着物	50.160	18.540	13.154	20.950	1.430
重量合計 (kg)	65.376	25.945	19.225	34.975	4.300
面積 (m ²)	20	20	20	18	9
1枠当りの重量 (kg/4m ²)	13.1	5.2	3.8	7.8	2.0

容量での集計結果（海岸方向）

容量（L=リットル）による海岸方向の集計結果を図 10、表 6 に示した。海岸方向では、重量での集計結果と同じ傾向で、海岸の南西側に多く、北東側の定点 1 が最も少なかった（図 10）。

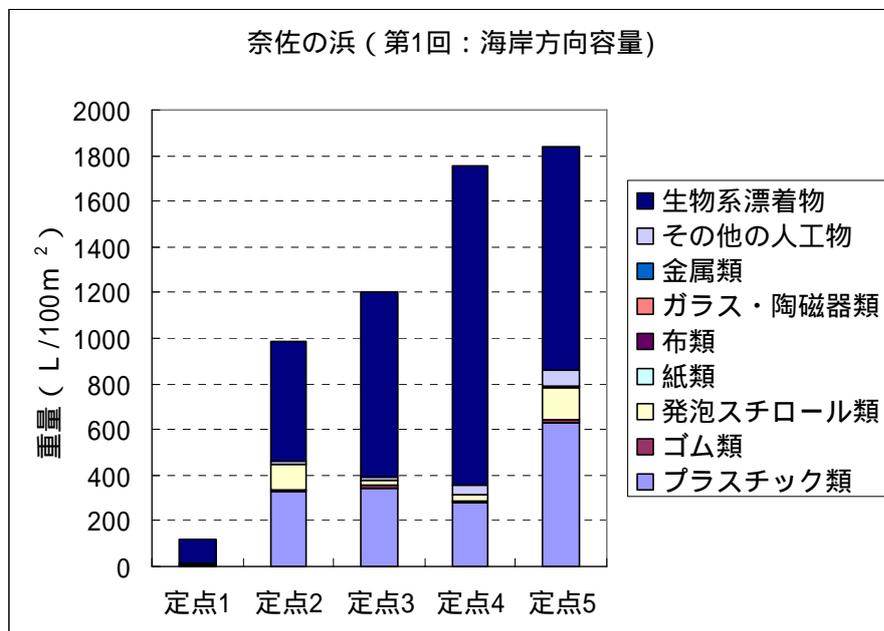


図 10 種類別重量の集計結果（海岸方向：L / 100 m²）

表 6 漂着ゴミの材質別（大分類）重量の集計結果（海岸方向）

大分類	定点 1	定点 2	定点 3	定点 4	定点 5
プラスチック類	6.506	328.560	241.880	232.380	506.130
ゴム類	1.800	4.700	5.460	3.460	8.450
発泡スチロール類	1.100	110.880	15.930	22.570	109.350
紙類	0.130	0.400	0.710	2.050	5.350
布類	0.200	0.650	1.350	1.000	0.300
ガラス・陶磁器類	0.220	0.900	0.690	0.400	1.890
金属類		0.000	0.190	0.920	0.850
その他の人工物	3.100	16.800	9.810	32.650	57.660
生物系漂着物	107.850	520.300	566.160	1159.510	782.510
容量合計 (L)	120.906	983.190	842.180	1454.940	1472.490
面積 (m ²)	100	100	70	83	80
1 枠当りの重量 (L / 100m ²)	120.9	983.2	1203.1	1752.9	1840.6

容量での集計結果（内陸方向）

容量による内陸方向の集計結果を図 11、表 7 に示した。内陸方向では、重量での集計結果と同じ傾向で、年間最大潮位線（基準線となる汀線）に接する A 枠が最も多かった（図 10）。A 枠の次には、年間最大潮位線から 6～8m に位置する D 枠が多かった。種類別では、生物系漂着物（主に流木）、プラスチック類が多く、D 枠、E 枠では発泡スチロール類も多く見られた。

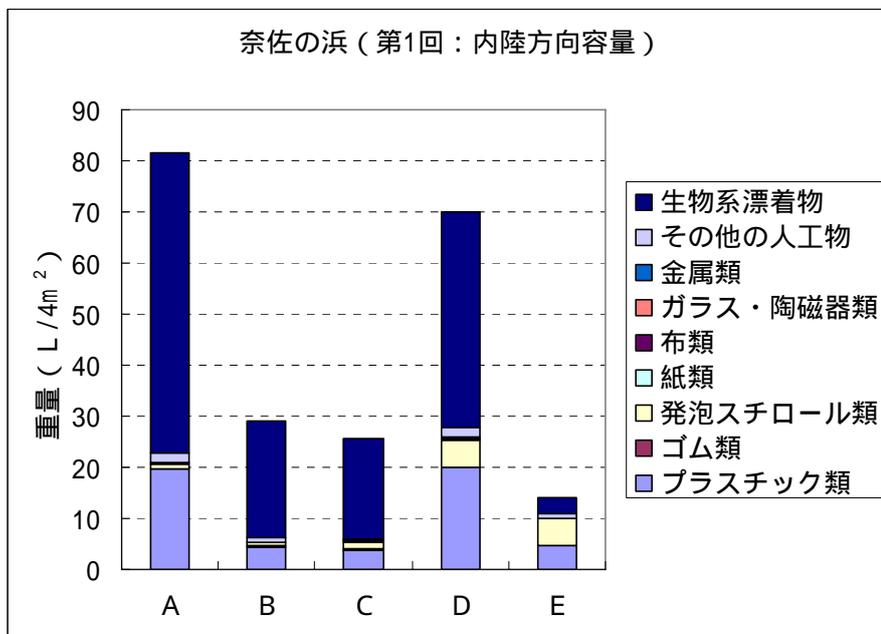


図 11 種類別重量の集計結果（内陸方向：L/4m²）

表 7 漂着ゴミの材質別（大分類）重量の集計結果（内陸方向）

大分類	A	B	C	D	E
プラスチック類	97.890	22.520	19.160	90.150	9.880
ゴム類	0.270	0.760	1.750	0.200	0.300
発泡スチロール類	5.060	3.000	6.100	23.280	11.400
紙類	0.580	0.150	0.200	1.650	
布類	0.100		0.100		
ガラス・陶磁器類	0.230	0.150	0.410	0.950	0.100
金属類	0.350	0.110	0.010	0.000	
その他の人工物	9.950	4.100	1.180	8.460	2.100
生物系漂着物	293.580	114.310	99.100	190.430	6.200
容量合計 (L)	408.010	145.100	128.010	315.120	29.980
面積 (m ²)	20	20	20	18	9
1 枠当りの重量 (L/4m ²)	81.6	29.0	25.6	70.0	13.9

(3) 漂着ゴミ集計結果

各調査地点における中分類毎の漂着ゴミ材質別重量の集計結果を表 8 に示す。また、回収した漂着ゴミの分別状況を図 12 に示した。

表 8(1) 漂着ゴミ材質別容量の集計結果(中分類、定点1)

(単位:kg)

大分類	大分類名	中分類	中分類名	計
1	プラスチック類	1	袋類	0.150
		2	プラボトル	0.314
		3	容器類	0.185
		4	ひも類・シート類	0.800
		5	雑貨類	0.112
		6	漁具	0.170
		7	破片類	0.300
		9	その他具体的に	0.000
			プラスチック類 計	
	2	ゴム類	1	ボール
2			風船	
3			ゴム手袋	
4			輪ゴム	
5			ゴムの破片	0.020
6			その他具体的に	0.720
		ゴム類 計		0.840
3	発泡スチロール類	1	容器・包装類	0.043
		2	パイ	
		3	発泡スチロールの破片	0.032
		4	魚箱(ト口箱)	
		5	その他具体的に	
		発泡スチロール類 計		0.075
4	紙類	1	容器類	
		2	包装	0.000
		4	紙片	0.010
		5	その他具体的に	0.000
		紙類 計		0.010
5	布類	1	衣服類	
		2	軍手	0.160
		3	布片	0.000
		4	糸、毛糸	
		6	その他具体的に	
		布類 計		0.160
6	ガラス・陶磁器類	1	ガラス	
		2	陶磁器類	
		3	ガラス破片	0.090
		4	陶磁器類破片	0.020
		5	その他具体的に	
		ガラス・陶磁器類 計		0.110
7	金属類	1	缶	
		2	釣り用品	
		3	雑貨類	
		4	金属片	
		5	その他	
		金属類 計		
8	その他の人工物	1	木類	0.800
		2	粗大ゴミ(具体的に)	
		4	建築資材(主にコンクリート、鉄筋等)	
		5	医療系廃棄物	0.001
		その他の人工物 計		0.801
9	生物系漂着物	1	流木、灌木等	15.470
		2	海藻	0.170
		3	その他(死骸等)	
		生物系漂着物 計		15.640
総計				19.667

表 8(2) 漂着ゴミ材質別重量の集計結果(中分類、定点2)

(単位:kg)

大分類	大分類名	中分類	中分類名	計
1	プラスチック類	1	袋類	5.594
		2	プラボトル	5.063
		3	容器類	2.297
		4	ひも類・シート類	3.845
		5	雑貨類	1.156
		6	漁具	2.462
		7	破片類	8.097
		9	その他具体的に	2.431
			プラスチック類 計	
	2	ゴム類	1	ボール
2			風船	
3			ゴム手袋	0.050
4			輪ゴム	
5			ゴムの破片	0.069
6			その他具体的に	0.900
		ゴム類 計		1.239
3	発泡スチロール類	1	容器・包装類	1.982
		2	パイ	0.431
		3	発泡スチロールの破片	1.268
		4	魚箱(トコ箱)	0.969
		5	その他具体的に	0.095
		発泡スチロール類 計		4.745
4	紙類	1	容器類	0.040
		2	包装	0.000
		4	紙片	0.000
		5	その他具体的に	0.030
		紙類 計		0.070
5	布類	1	衣服類	
		2	軍手	0.240
		3	布片	0.020
		4	糸、毛糸	0.010
		6	その他具体的に	0.050
		布類 計		0.320
6	ガラス・陶磁器類	1	ガラス	0.050
		2	陶磁器類	
		3	ガラス破片	0.380
		4	陶磁器類破片	0.024
		5	その他具体的に	0.016
		ガラス・陶磁器類 計		0.470
7	金属類	1	缶	
		2	釣り用品	
		3	雑貨類	0.001
		4	金属片	0.006
		5	その他	
		金属類 計		0.007
8	その他の人工物	1	木類	5.120
		2	粗大ゴミ(具体的に)	
		4	建築資材(主にコンクリート、鉄筋等)	0.490
		5	医療系廃棄物	0.008
		その他の人工物 計		5.618
9	生物系漂着物	1	流木、灌木等	54.490
		2	海藻	0.230
		3	その他(死骸等)	
		生物系漂着物 計		54.720
	総計			98.134

表 8 (3) 漂着ゴミ材質別重量の集計結果 (中分類、定点3)

(単位:kg)

大分類	大分類名	中分類	中分類名	計
1	プラスチック類	1	袋類	1.057
		2	プラボトル	1.313
		3	容器類	1.629
		4	ひも類・シート類	3.154
		5	雑貨類	0.697
		6	漁具	1.871
		7	破片類	3.587
		9	その他具体的に	2.165
		プラスチック類 計		15.473
2	ゴム類	1	ボール	0.250
		2	風船	
		3	ゴム手袋	0.051
		4	輪ゴム	0.000
		5	ゴムの破片	0.221
		6	その他具体的に	0.500
		ゴム類 計		1.022
3	発泡スチロール類	1	容器・包装類	0.120
		2	フイ	0.210
		3	発泡スチロールの破片	0.338
		4	魚箱(ト口箱)	0.074
		5	その他具体的に	0.025
	発泡スチロール類 計		0.767	
4	紙類	1	容器類	0.060
		2	包装	0.003
		4	紙片	0.050
		5	その他具体的に	
	紙類 計		0.113	
5	布類	1	衣服類	0.000
		2	軍手	0.150
		3	布片	0.000
		4	糸、毛糸	0.020
		6	その他具体的に	0.010
		布類 計		0.180
6	ガラス・陶磁器類	1	ガラス	0.200
		2	陶磁器類	
		3	ガラス破片	0.086
		4	陶磁器類破片	0.010
		5	その他具体的に	
	ガラス・陶磁器類 計		0.296	
7	金属類	1	缶	
		2	釣り用品	
		3	雑貨類	0.001
		4	金属片	0.154
		5	その他	
	金属類 計		0.155	
8	その他の人工物	1	木類	3.580
		2	粗大ゴミ(具体的に)	
		4	建築資材(主にコンクリート、鉄筋等)	0.190
		5	医療系廃棄物	0.056
	その他の人工物 計		3.826	
9	生物系漂着物	1	流木、灌木等	75.840
		2	海藻	0.370
		3	その他(死骸等)	0.004
	生物系漂着物 計		76.214	
総計				98.046

表 8(4) 漂着ゴミ材質別重量の集計結果(中分類、定点4)

(単位:kg)

大分類	大分類名	中分類	中分類名	計
1	プラスチック類	1	袋類	1.751
		2	プラボトル	1.534
		3	容器類	3.893
		4	ひも類・シート類	1.656
		5	雑貨類	2.285
		6	漁具	3.734
		7	破片類	5.477
		9	その他具体的に	4.290
		プラスチック類 計		24.620
2	ゴム類	1	ボール	0.150
		2	風船	0.013
		3	ゴム手袋	0.212
		4	輪ゴム	0.010
		5	ゴムの破片	0.068
	6	その他具体的に	0.480	
	ゴム類 計		0.933	
3	発泡スチロール類	1	容器・包装類	0.225
		2	フイ	0.070
		3	発泡スチロールの破片	0.471
		4	魚箱(トコ箱)	0.075
	5	その他具体的に	0.085	
	発泡スチロール類 計		0.926	
4	紙類	1	容器類	0.130
		2	包装	
		4	紙片	0.000
	5	その他具体的に	0.000	
	紙類 計		0.130	
5	布類	1	衣服類	0.120
		2	軍手	0.110
		3	布片	0.000
		4	糸、毛糸	
	6	その他具体的に	0.010	
	布類 計		0.240	
6	ガラス・陶磁器類	1	ガラス	0.012
		2	陶磁器類	
		3	ガラス破片	0.129
		4	陶磁器類破片	0.030
	5	その他具体的に		
	ガラス・陶磁器類 計		0.171	
7	金属類	1	缶	0.000
		2	釣り用品	0.003
		3	雑貨類	0.010
		4	金属片	0.054
	5	その他	0.045	
	金属類 計		0.112	
8	その他の人工物	1	木類	59.500
		2	粗大ゴミ(具体的に)	0.002
		4	建築資材(主にコンクリート、鉄筋等)	
	5	医療系廃棄物	0.175	
	その他の人工物 計		59.677	
9	生物系漂着物	1	流木、灌木等	237.790
		2	海藻	21.820
	3	その他(死骸等)		
	生物系漂着物 計		259.610	
総計				346.419

表 8 (5) 漂着ゴミ材質別重量の集計結果 (中分類、定点5)

(単位:kg)

大分類	大分類名	中分類	中分類名	計
1	プラスチック類	1	袋類	1.991
		2	プラボトル	5.040
		3	容器類	6.301
		4	ひも類・シート類	2.049
		5	雑貨類	2.549
		6	漁具	5.118
		7	破片類	12.856
		9	その他具体的に	5.112
		プラスチック類 計		
2	ゴム類	1	ボール	0.210
		2	風船	0.011
		3	ゴム手袋	0.030
		4	輪ゴム	0.010
		5	ゴムの破片	0.020
		6	その他具体的に	2.180
		ゴム類 計		
3	発泡スチロール類	1	容器・包装類	0.940
		2	パイ	1.112
		3	発泡スチロールの破片	1.240
		4	魚箱(ト口箱)	0.065
		5	その他具体的に	0.144
発泡スチロール類 計				3.501
4	紙類	1	容器類	0.350
		2	包装	0.124
		4	紙片	0.090
		5	その他具体的に	0.135
		紙類 計		
5	布類	1	衣服類	
		2	軍手	0.220
		3	布片	
		4	糸、毛糸	
		6	その他具体的に	0.020
		布類 計		
6	ガラス・陶磁器類	1	ガラス	0.140
		2	陶磁器類	0.000
		3	ガラス破片	0.687
		4	陶磁器類破片	0.240
		5	その他具体的に	0.070
ガラス・陶磁器類 計				1.137
7	金属類	1	缶	0.040
		2	釣り用品	
		3	雑貨類	0.012
		4	金属片	0.030
		5	その他	0.120
金属類 計				0.202
8	その他の人工物	1	木類	20.000
		2	粗大ゴミ(具体的に)	0.000
		4	建築資材(主にコンクリート、鉄筋等)	0.228
		5	医療系廃棄物	0.135
		その他の人工物 計		
9	生物系漂着物	1	流木、灌木等	132.631
		2	海藻	2.250
		3	その他(死骸等)	
生物系漂着物 計				134.881
総計				204.500



図 12(1) 回収した漂着ゴミの分類状況(生物系漂着物等)



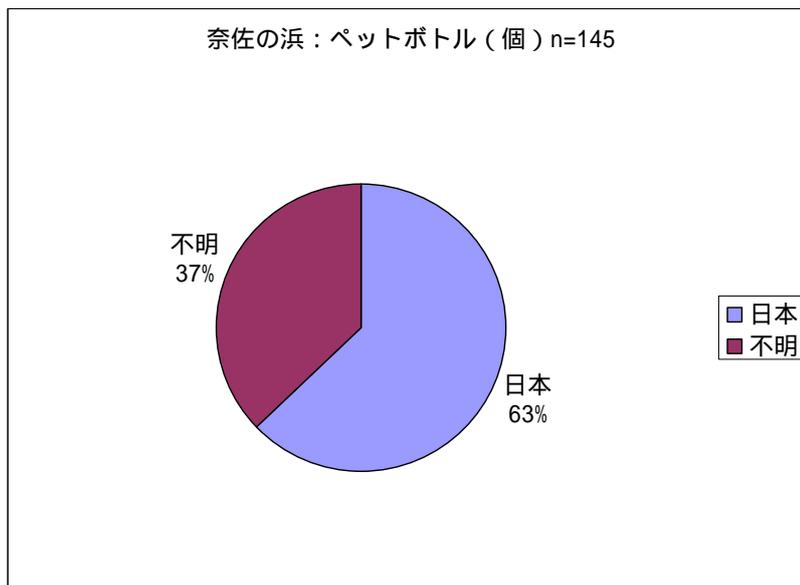
図 12(2) 回収した漂着ゴミの分類状況(プラスチック類等)

(4) ラベル表記言語による国別集計結果

奈佐の浜における共通調査枠内のゴミを対象に、ラベルに言語が表記されているゴミについて、国別に個数を集計した。対象としたゴミは、ペットボトル、ライター、飲料用缶、漁業用ブイとした。なお、この分類は、ラベルに表記された言語により国別に分類したものであり、必ずしもゴミの発生した国と一致しないことに留意する必要がある。

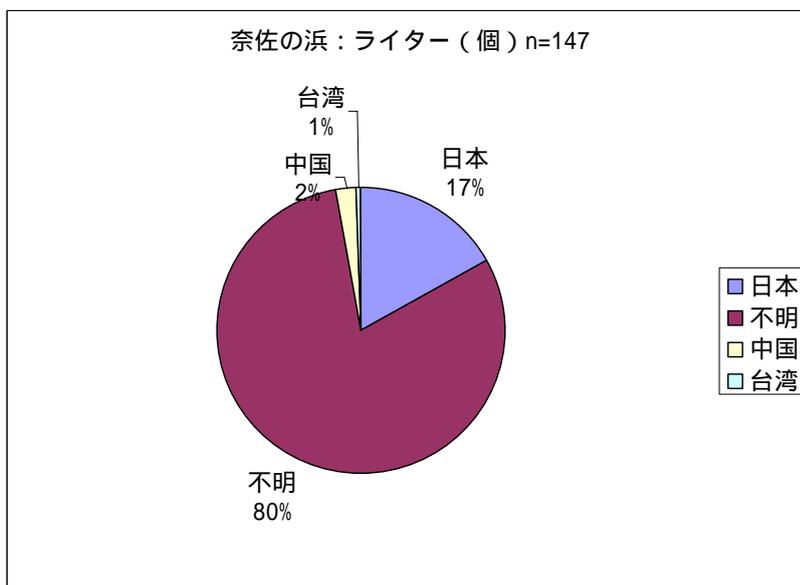
ペットボトル

飲料用ペットボトルは、不明のものが約 37% を占めたが、その他は全て日本で、全体の約 63% であった。



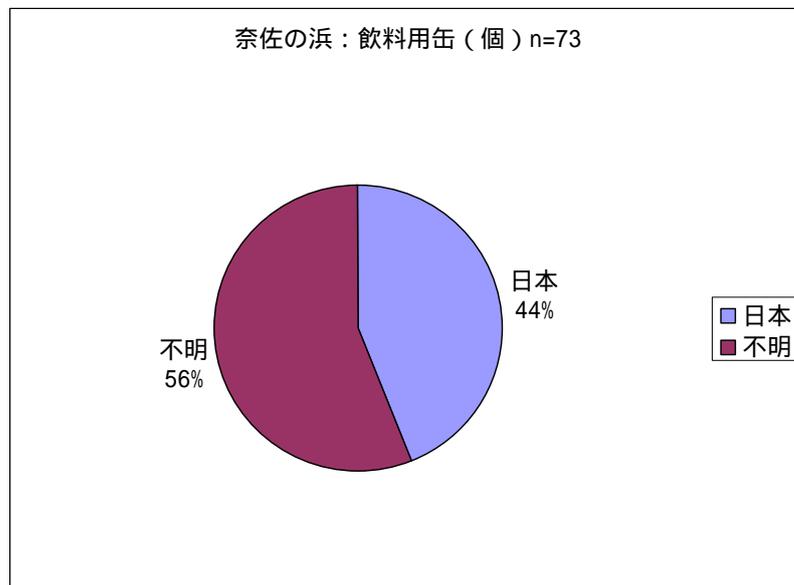
ライター

ライターは、不明のものが約 80% を占めたが、その他はほとんどが日本で、全体の約 17% であった。中国製は約 2%、台湾製は約 1% であった。



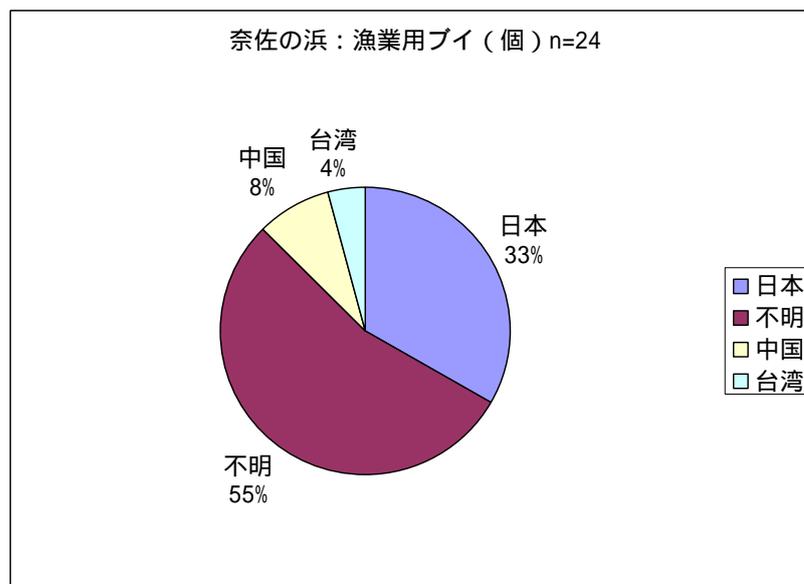
飲料用缶

飲料用缶は、不明のものが約 56%を占めたが、その他は全て日本で、全体の約 44%であった。



漁業用ブイ

漁業用ブイは、不明のものが約 55%を占めた。日本が全体の約 33%であり、中国が約 8%、台湾が約 4%であった。



4.2 独自調査

(1)回収

漂着ゴミの回収は、基本的に人力で行った(図 13)。人力で回収できない大きな流木については、チェーンソーにより人力で回収可能な大きさに切断した後、運搬した。漂着ゴミは回収時に以下の 5 つに分類し、土嚢袋、45L のゴミ袋に回収した。鳥羽市による漂着ゴミの分別は、これまでに実施された奈佐の浜における清掃の状況について聞き取りを行なった結果、流木については答志島清掃センターにて焼却処分を行い、他のゴミについては燃えないゴミとして処分されているようである。

- ・ 流木、木ぎれ、海藻
- ・ 発泡スチロール
- ・ ペットボトル
- ・ 空き缶・空き瓶
- ・ その他(プラスチック、ゴム等の人工物)

浜において人力で回収したゴミは、浜の上まで人力で運搬しトラックに積み込み、分類場所に輸送後、分類作業を実施した。



人力による回収風景



回収された漂着ゴミ



人力による回収風景

図 13 独自調査における漂着ゴミの回収状況

(2) 運搬

回収した漂着ゴミのうち流木については、鳥羽市営答志島清掃センターに自己運搬にて搬入した。廃プラスチックなどの燃えないゴミについては、海上輸送を地元の廃棄物運搬業者に依頼する。その後、鳥羽市の取扱い業者の処分施設へトラックを使用して運搬する（図 14）。

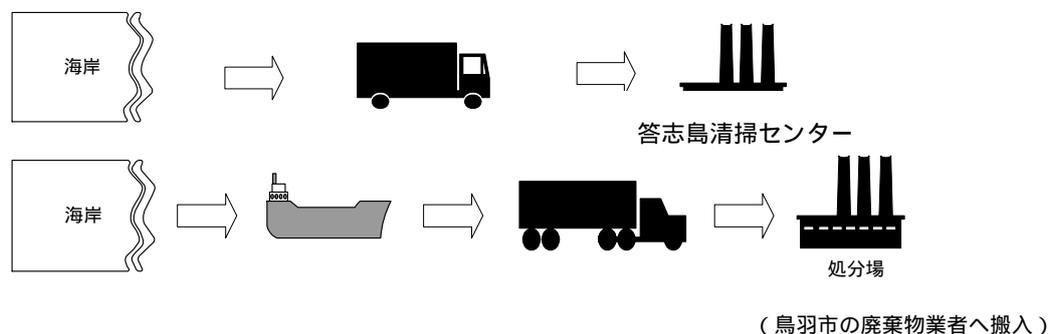


図 14 漂着ゴミの運搬方法の模式図

(3) 処分

回収した漂着ゴミのうち流木については、鳥羽市営答志島清掃センターに処分を依頼した。その他の燃えないゴミについては、次回の調査時にあわせて処分する。

(4) 回収結果

独自調査において回収した漂着ゴミの容量を表 9 に、回収前後の奈佐の浜の状況を図 15 に示した。

表 9 独自調査結果

回収したゴミの種類	回収量（単位：m ³ ）			
	10月17日	10月18日	10月19日	計
流木、木切れ、海藻	-	2	-	2
発泡スチロール	0.4	-	-	0.4
ペットボトル	0.2	-	-	0.2
缶	0.2	-	-	0.2
その他（プラスチック、ゴム等の人工物）	2	-	2	4



図 15 奈佐の浜における漂着ゴミ回収前後の状況

4.3 今後の課題・検討事項

今後の海岸清掃の体制について

今後、海岸環境の状態を維持していくには、持続可能な方法で継続的に海岸清掃を行っていくことが必要であり、海岸管理者である地方公共団体が地域住民等の関係者と協力して海岸清掃を進めていくことが重要である。そのための地域レベルの体制・枠組作りと、地域の関係者による効率的・効果的な漂流・漂着ゴミの回収・処理方法について、検討を行っていくこととする。

海岸清掃に当たっての清掃員の募集方法について

海岸清掃を継続的に行っていくには、地域住民等からの清掃員の募集が不可欠であり、清掃員を適切に確保する方法について、検討を行っていくこととする。

流木の回収方法について

今回の調査範囲の中で、奈佐の浜の漂着ゴミは、大きな流木を除けば20人程度の人力で3日程度で除去可能であると考えられた。流木については、今回の調査実施時には大きな流木の漂着がなかったことと、漂着している流木が少なかったため全てを人力で実施することが可能であった。これまでの地元の方の情報によると、冬型の気圧配置になるとゴミの漂着量が増える傾向があり、人力で回収できる漂着量の範囲を超えてしまう可能性がある。

移動困難箇所における独自調査について

独自調査範囲内にある、徒歩や車両移動が困難な場所の海岸のクリーンアップについて、船による、調査員の移動、ゴミの回収および運搬手法や実施可能時期等を検討する。